



スモール瀬戸内海・八木灘の“離島”を中心としたエコツーリズムによる地域活性化プラン

1. 事業概要

実施主体	一般社団法人瀬戸内海エコツーリズム協議会
連携する地方公共団体	広島県豊田郡大崎上島町、広島県竹原市、広島県東広島市、広島県呉市
その他連携する団体等	大崎上島町観光協会、竹原市観光協会、安芸津町観光協会、呉市観光協会、せとうちDMO等
取組概要	<p>広大な瀬戸内海の<small>スモールスケール版</small>として、豊かな漁場環境を有し、自然景観や文化歴史が育まれてきた“八木灘”と呼ばれる瀬戸内海西部海域、そして、その中央に位置する“離島”である大崎上島をモデルフィールドとする。観光資源を生物文化多様性（地域の豊かな自然と文化が、支え育みあい多様性を紡ぎ出すこと）を育むエコツーリズムの視点から掘り起こし、八木灘沿岸域を“離島”にフォーカスしたコンセプトで繋ぎ、漁業・農業の活性化を促進し、地元でしか体験できないエコツアーを旅行者・来訪者に提供する。</p> <p>遠方者の“離島”への来島や高齢者宅での民泊には感染リスクもあるため、withコロナ期においては、「近隣地域からの日帰りエコツーリズム」によって、これまで培った農業体験・漁業体験や民泊等のノウハウを活かしたコンテンツに磨きを掛ける。そして、afterコロナ期を見据え、八木灘を囲む3市1町の関係機関がネットワークを形成し、連携したブランディングを図ることで、「遠方からの旅行者を受け入れる滞在型のエコツーリズム」の構築を行っていく。</p>
事業スケジュール	12～1月 日帰り体験ツアーや八木灘滞在型エコツアーの実施 1月 “八木灘”を知るオンラインフォーラム開催

<「新しい生活様式」の実践を意識する点>

準備段階ではオンラインを最大限活用し、感染状況に関する最新情報を収集し、緊急事態発生時のフローを準備しておく。“エコツーリズム”自体が**個人志向の少人数の旅**であり、**自然の中でアクティビティを満喫**してもらうものであるため、withコロナ・afterコロナ期においても、**3密を回避**できる「新しい生活様式」にマッチした“**新しい旅のスタイル**”を提供できる。また、afterコロナ期の**関係人口の増加**に寄与し「新しい生活様式」における自由な職住への関心を高め移住へと繋げていく。

<取組の新規性・独自性>

“離島”である大崎上島を中心とした八木灘海域の活性化及び“離島”や“沿岸域”の漁業・農業生産の活用とエコツーリズムの推進

- “離島”の活性化：①利用者が減少している“**漁港の多機能化**”推進、他の海域と比べ比較的多く獲れる魚価の高い魚種（メバル・オコゼ・キジハタ・タイなど）に着目した**海釣り**や**朝市**などのイベント ②**近隣地域から“離島”への観光客の動線（交通アクセス）**及び拠点構築 ③「とびしま海道」からの延伸を活用したエコツアー ④島内における“**賑わい創出**”委員会の開催
- 本土側沿岸域との連携**：①竹原市歴史文化資産（古民家・塩田文化）とのコラボ ②東広島市安芸津町の街並みを拠点とした八木灘を満喫する**船旅エコツアー** ③JR呉線・仁方～竹原を利用した「**八木灘“酒蔵巡り”ツアー**」
- 遠方からの観光客への対応**：①**海道（フェリー）**による“**八木灘ツアー**” ②“**海路歴史探訪ツアー**” ③**スナメリウォッチングツアー** 等
地元ならではの**コンテンツの開発**：漁業者による**刺網体験**・農業者による**果樹園体験**→**収穫物を使った料理体験**、漁業者・農業者の**家庭料理**“まかない昼飯”の味わい体験、**公民館等**で**漁業者・農業者の家庭で普段食べている“まかない料理”**の品評会、**高齢者の語り部**→島の“**生きがい**”を知ってもらい“**離島ファン**”を増やす。等



瀬戸内海西部に位置するスモール瀬戸内海“八木灘”アクティビティ・マップ

- “離島”での日帰り“生活体感ツアー”や“八木灘海域をぐるりと巡る滞在型エコツアー”の実施
- 八木灘の自然と歴史を知るフォーラム「**守ろう・楽しもう 八木灘の自然と歴史**」の開催（You Tube Live方式）
- 情報発信・プロモーション（**地産品のパッケージ開発、HP（日本語・英語版）の活用、プロモーションビデオ作成**等）
- 八木灘エコツアーガイドブックとエコマップの発行

2. 地域の現状・課題および事業実施により期待される効果

評価の高い瀬戸内海の環境も今や危機的な状況にあり、**離島の人口減少と超高齢化による過疎化、そして無人島化**が進行しているのが現状である。そのため、これまで培ってきた離島の歴史や文化的景観は消滅の危機に瀕しており、**生活基盤となる社会システムもが崩壊**しつつある。また、島内の**貴重な自然環境の管理が不能**になり、かけがえない自然景観が破壊されている。コロナ禍においては、**来島者の減少・島民の受け入れマインドの低下、各地域単独での名物や土産などのブランドが広がっていかない**等が、切実な問題となっている。このことにより、これまで漁業者や農業者の家庭で、修学旅行や来島者を**民泊**させてきた**ノウハウが失われつつある**。

3. 次年度以降の取組

“離島”におけるwithコロナ期・afterコロナ期の魅力的な滞在コンテンツモデルを造成することで、社会的な課題である**民泊の減少対策や農村漁村の活性化対策の横展開**を図る。当協議会においては、過去10年の活動の中で、継続的にエコツアーおよびフォーラムを実施しており、ホームページやSNSアカウントも整備済である。またエコツアーに関しては、過去の活動を通して地元の方々とのネットワークが構築されている。当協議会では本事業終了後も、持続的な実施を想定しており、またそれが実施可能な体制も整っている。また、「**エコツーリズム推進の4省庁認定に挑戦**していくことで、八木灘海域の“離島”や“沿岸農漁村”の全国PRや活性化を図っていく。

4. 一次公募からの改善点

一次公募で提案した事業の名称：**瀬戸内海/八木灘の“離島”を中心としたエコツーリズムによる地域活性化プラン**
二次公募における「改善点」：
○フィールドを“八木灘”という海域で囲み、更に“離島”にフォーカスして、特徴や問題点を明らかにした上で、**地元らしさ**を楽しめるエコツアーに深掘りした。
○withコロナ期の“**日帰りエコツアー**”とafterコロナ期の“**滞在型エコツアー**”で、行うコンテンツを明確にした。
○連携する市町及びそれぞれの観光協会を増やすことで、“**八木灘**”をぐるりと**囲む広域的な連携体**を組織し、同地域内のそれぞれの**自然・文化資産の繋がりと広がり**を際立たせた。